＜ 改善報告書検討結果（東洋大学）＞

［1］ 概評

2007（平成19）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する提言として12点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの提言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

学生の受け入れについては、収容定員に対する在籍学生数比率および過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均に関して、理工学部ではそれぞれ1.28、1.24と高く、特に前者は評価当時よりも高くなっている。また、社会学部においても、最近2年間の受け入れにおいては改善の兆しが見られるものの、それぞれ1.26、1.25といずれも評価当時よりもさらに高くなっているため、早急に改善されたい。

教員組織については、61歳以上の専任教員の占める割合が理工学部において29.1%と改善が見られるものの、文学部では51～60歳が32.4%、61歳以上が32.3%と、まだ年齢構成に偏りがあるので、今後とも努力が望まれる。また、専任教員1人あたりの在籍学生数が、文学部、経営学部および法学部では依然として多く、文学部は評価当時よりも深刻な状況になっているので、一層の努力が望まれる。

［2］ 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以　上